



古典歌舞伎の物語を人気声優陣が現代語を交えてお届けする朗読劇「こえかぶ 朗読で楽しむ歌舞伎 ～雪の夜道篇～」を 2023 年 10 月 7 日(土)～10 月 9 日(月祝)、東京・赤坂の草月ホールにて上演いたしました。昨年の初演に引きつづき、脚本・演出には劇作家の岡本貴也さんを迎え、歌舞伎の専門スタッフ、第一線で活躍する豪華声優陣全 12 名が集結した本公演。大盛況に終わった公演の模様をお届けいたします。

■出演者・配役

	映画俳優 黛 寛太 役	舞台俳優 風吹 蘭 役	アナウンサー 京本 竹夫 役	番組ディレクター 鈴木 昌治 役
雪暮夜入谷畦道 主な配役	片岡直次郎	三千歳	暗闇の丑松	金子市之丞
仮名手本忠臣蔵 主な配役	斧九太夫	寺岡平右衛門	大星由良之助	おかる
10 月 7 日(土)	高橋 広樹	斎賀 みつき	内田 夕夜	羽多野 渉
10 月 8 日(日)	諏訪部 順一	甲斐田 ゆき	置鮎 龍太郎	福山 潤
10 月 9 日(月祝)	吉野 裕行	朴 璐美	平田 広明	立花 慎之介

■あらすじ・レポート

1952 年 10 月。季節外れの秋の台風が接近し、次第に風雨が強まる夜。放送協会のラジオスタジオから物語ははじまります。

人気番組『声で楽しむ歌舞伎 こえかぶ』の生放送が迫る中、台風の影響により出演者が誰も到着しないという緊急事態。番組ディレクターの鈴木昌治（7 日：羽多野、8 日：福山、9 日：立花）はこの状況を打開すべく、1 階で行われていたパーティ

一の参加者から映画俳優の黛寛太（7日：高橋、8日：諏訪部、9日：吉野）、舞台俳優の風吹蘭（7日：斎賀、8日：甲斐田、9日：朴）、そして放送協会アナウンサーの京本竹夫（7日：内田、8日：置鮎、9日：平田）の三名を無理やりスタジオに連れてきます。



▲無理やり連れてこられ、洪々と「こえかぶ」の台本を読み始める。（左：8日公演 右：9日公演より）

出演に納得がいかない3人と、なんとか本番に間に合わせようと孤軍奮闘する昌治のテンポのよいやり取りに序盤から客席は笑いに包まれました。

ドタバタながらもなんとか時間通りに始まった生放送。最初の演目は江戸～明治時代の狂言作者・河竹黙阿弥の代表作の一つで、『直侍』としても知られる『雪暮夜入谷畦道』（ゆきのゆうべいりやのあぜみち）です。



▲「声で楽しむ歌舞伎 こえかぶ」タイトルコールを引き受ける竹夫（左：7日公演 右：8日公演）



▲「演技なんて無理！」と及び腰だった竹夫、寛太にうまく乗せられ…（左：8日公演 右：9日公演より）



▲悪事を重ね追われる身の直次郎。
恋人の花魁・三千歳に一目会いたさに大口の寮に忍び入るが。（左：7日公演 右：9日公演）

捕手に追われる小悪党の直次郎と恋人の花魁・三千歳による哀切な色模様は、情感たっぷりと聴かせ、観客の涙を誘いました。



▲恋人・直侍への思慕を吐露する三千歳(左：7日公演 中：8日公演 右：9日公演)

また、昌治役は蕎麦屋の主人、按摩の丈賀、金子市之丞と三役の巧みな演技分けを披露。“声”を生業とする声優ならではの技術が光ります。



▲見事な演技分けに客席からは拍手がおこる(左：7日公演 右：9日公演)



▲「雪暮夜入谷畦道」の梗概を蘭から説明される寛太(9 日公演)



▲実は“二本立てスペシャル”と昌治から告げられ…「忠臣蔵」の配役を練る一幕(8 日公演)

二本目の演目は竹田出雲、三好松洛、並木千柳の合作である『仮名手本忠臣蔵』（かなでほんちゅうしんぐら）。本演目は、江戸時代に実際に起きた出来事である赤穂浪士による吉良邸討ち入り事件を題材に、時代設定や人名・地名などを『太平記』の世界に置き換えて描かれている作品で、本公演では七段目 祇園一力茶屋の場を中心に物語が展開します。



▲放送作家のミスを挽回するべく六段目までを早野勘平を演じながら一気にまくしたてる（7日公演）

男性声優がヒロインのおかるを演じる歌舞伎らしい配役の妙や、これまで終始頼りなさが際立っていた竹夫が主役の大星由良之助としてどっしりとした存在感で芝居を締め、出演者の確かな演技力を堪能できる一幕となりました。



▲紫の羽織をまとった「おかる」（左上段：7日公演 左下段：8日公演 右：9日公演）



▲無事「こえかぶ二本立てスペシャル」を乗り切ってはしゃぐ4人（7日公演）

また本編終了後には出演者によるアフタートークも開催。初日には「こえかぶ」アンバサダーの歌舞伎俳優・中村鷹之資も登壇し、場を盛り上げました。



▲「こえかぶラジオ」でも本作を盛り上げたアンバサダー・中村鷹之資丈

単なる朗読ではなく、歌舞伎が劇中劇として上演されることで、まるで演劇を観ているかのような躍動感があり、目でも耳でも楽しめる公演となった『こえかぶ』。日替わりの出演者による各回ごとの色の違う味付けも魅力です。
この度、衛星劇場で12月に全日程の放送が決定。歌舞伎と声優のコラボレーションをぜひテレビでもお楽しみください。